『第四回都留市ふれあい全国俳句大会』開催

四月二十七日、「第四回都留市ふれあい全国俳句大会」が、文化ホールの大ホールで、県内外より三〇〇名を越す方々が参加し、盛大に行われました。

当日出題された席題をもとに、当日投句作品の部には四七七作品の投句があり、その作品を当日会場にて八名の選者により審査し、表彰を行いました。

また、昨年十一月一日から二十八日まで募集したはがきによる応募作品の部には、全国から三〇〇〇作品を越える投句があり、前もって十名の選者により審査した正賞・准賞作品六〇句の発表、表彰を行いました。

応募作品の選評に廣瀬直人先生、講演には応募句の部選者の鷹羽狩行先生、当日作品の選評には福田甲子雄先生を迎え、会場の方々はメモを取るなど、熱心に聞き入っていました。

応募作品の部

正　賞

○井沢 正江 選

毛皮着て師の影うかと踏みにけり
宮崎県延岡市　堀江 絹子

○稲畑 汀子 選

花の種採り来年を預かりし
富士吉田市　石原とみ子

○桂　信子 選

影引いて竿挿す秋の入日かな
三重県四日市市　村岡 益太

○金子 兜太 選

宿りゐし胎児よひかる今年米
南部町　市川 東子

○沢木 欣一 選

雉子翔ちぬ富士のふもとの
河原より
東京都府中市　村橋 邦香

○鷹羽 狩行 選

鷺草の羽ばたく音を聴きすます
福岡県北九州市　中村 重義

○原　裕 選

褒められも叱られもせず日向ぼこ
東京都足立区　廣田 絹子

○廣瀬 直人 選

元日の会わねば水の如くなり
兵庫県姫路市　石見ひさ子

○福田 甲子雄 選

真向かひに雲脱ぐ富士や機初め
中富町　望月 義男

○古舘 曹人 選

この道のほかにみちなし冬帽子
竜王町　清水 睦美

山梨日日新聞社賞

百畳の一畳にゐて堂涼し
都留市　国井美代子

山梨放送賞

サングラスも持って
余生の旅となる
大月市　奈良 土舟

当日作品の部

席題（山吹・春の風）

正　賞

○小林 波留 選

山吹きや母の爪切る車椅子
大月市　村上真喜子

○志村さゝを 選

蔵窓にふかき闇あり春の風
千葉県我孫子市　原口 季代

○堤　高嶺 選

春の風あふれる山を拓きけり
大月市　村上真喜子

○幡野 岳稜 選

ぶらんこを天まで漕ぐ子春の風
都留市　清水 祐起子

○廣瀬 直人 選

神領にして山吹きの一重なる
静岡県下多賀　勝俣ウメ子

○福田 甲子雄 選

やまぶきをみてゐる
ひとえまぶたかな
中富町　望月 義男

○松川 樹海 選

ネックレス忘れし胸元春の風
都留市　杉田 規子

○山本 琴嶺 選

麻痺の児にえくぼ生るる春の風
富士吉田市　森 かずを

山梨日日新聞社賞

春風や二十世紀を抜ける子等
都留市　志村 光代

山梨放送賞

春風や赤を着こなしなほ老いず
増穂町　志村よう平

八朔祭屋台シリーズ1

郡内の三大祭りと称される八朔祭りは、四日市場の生出神社の祭礼であり、また、江戸時代より町場としての谷村を彩る祭礼行事でもありました。

祭りには、神輿の巡行に続き、付祭りが、祭礼を華々しく盛り上げたといわれています。

江戸時代に行われていた付祭りの様子は、幕末に作成された生出明神御祭礼定式帳から、その概要を知ることができます。

榊太鼓の触れを先頭に、下天神町が行う大名行列、その後に早馬町屋台、新町屋台、新井の神楽獅子、仲町屋台、下町屋台、宮本の四日市場の神楽獅子、そして、代官所の役人、総行司、各町および四日市場の世話役によって供奉された神輿が続いたと記されています。

また、後世になって、田町の船形屋台、横町の重層屋台も繰り出されたといわれ、この他、各町が仮装行列、花車、踊りなど趣向をこらした「にわか」ものを出して、祭りの賑わいを倍加させたといわれています。

祭りの準備は、七月七日に始まりました。この日は、上町、上天神町を氏子とする金山大権現の祭礼の日であり、この祭礼に生出神社氏子の下天神町、早馬町、新町、仲町、下町も、当番世話役の差配を受け、幡、高張り提灯、警護人を出して参加しました。

神輿巡行終了後、主催者二町の世話役は、五町の世話を西願寺太子堂へ案内し、同所で二町の立ち会いのもとで、八朔祭りについて評議が行われました。

この時の議題は、各町の屋台曳きがその年の事情によって休みとなることもあったため、行うか否かの調整でした。

しかしながら、付祭りの屋台曳きが取りやめとなった年でも、「神輿敬式」のため下天神町の行列のみは、残り四町が助け合い費用を出してでも執行することになっていました。

さて、七月七日の協議の後、同月十六日に氏子の五町が各町内で評議、翌十七日に年番総行司、世話役のもと各町当番役が会合し、その年の谷村側の祭礼の規模を決定しました。

そして、同日中に、この最終決定は四日市場当番世話役の会所に届けられましたが、神輿の巡行に関する決定権は四日市場にありました。

八朔祭りには、その年の事情によって、大名行列や屋台曳きなどの付祭りが行われる本祭りの年と、祭礼儀式だけの居祭りの年とがありました。当然のことながら、本祭りには、多くの見物人が集まり、賑わいは県内でも有数なものといわれました。

今回から、十回にわたって、八朔祭りと、この付祭りとして祭りに彩りを添えた祭屋台について、紹介したいと思います。